

低温等に関する農作物の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

平成25年7月19日14時30分、「低温に関する異常天候早期警戒情報（東北地方）」（仙台管区气象台）が発表されました。

7月24日頃からの約1週間は、東北太平洋側で平年よりかなりの低温となるおそれがありますので、日照量や降水量も含めて今後の気象情報に注意するとともに、農作物の管理には十分注意してください。

要早期警戒

警戒期間 7月24日頃からの約1週間

対象地域 東北太平洋側

警戒事項 かなりの低温（7日平均地域平年差 -3.3°C 以下）

確率 30%以上

今回の検討対象期間（7月24日から8月2日まで）において、東北地方では、東北太平洋側において、7月24日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり低くなる確率が30%以上と見込まれます。

農作物の管理等に注意してください。また、今後の気象情報に注意してください。

なお、平成25年7月23日14時30分に仙台管区气象台より発表された「低温に関する異常天候早期警戒情報（東北地方）」でも、7月28日頃からの約1週間は、東北太平洋側でかなりの低温（7日平均地域平年差 -3.0°C 以下）となる確立が30%以上と見込まれていますので、引き続き農作物の管理に注意願います。

1 水稻

（1）水稻の生育状況等

現在水稻はひとめぼれ等で減数分裂期（出穂前10～12日頃、幼穂長はおおよそ8cm前後）、コシヒカリでは7月末に減数分裂期になるところが多いと予想され、低温に弱い時期にさしかかっております。この時期に概ね 17°C 以下の低温（気温）に遭遇すると花粉が障害を受けて減収する冷害（花粉不稔による障害型冷害）のおそれがあります。

（2）冷害から水稻を守る水管理

出穂前10～12日頃には減数分裂期（穂ばらみ期前期）に入り花粉の充実が進みます。この時期は水稻が最も低温に弱い時期に当たりますので、 17°C 以下の低温時には深水管理を行います。目安としては10cm以上の深水管理を行うことで障害を軽減することがで

きます。

なお、幼穂形成期に一度17℃以下の低温に遭遇し、その後さらに減数分裂期に低温に遭遇すると著しい被害につながることを確認されています。

県内では7月16日以降、山間部や浜通りで最低気温が17℃を下回る日が続いた地域があり、その影響が心配されますので、今後の低温時には確実に深水管理を行いましょう。

(3) 病害虫対策

ア いもち病

寡照・多雨条件下では、いもち病が多発し被害が拡大するおそれがあるので、発生予察情報等を活用し、適切な防除の実施を心がけましよう。

イ カメムシ類

減数分裂期に低温寡照で経過すると、割れ粗が発生しやすくなり、割れ粗の開穎部より吸汁するカメムシ類による被害粒増加の原因となります。出穂14日前までに畦畔の草刈りを実施し、カメムシ類の密度を下げ被害発生を予防しましよう。

2 野菜

(1) 低温・寡照・長雨条件下では、トマト等の着色不良やきゅうり・さやいんげん等の肥大遅延等が発生しやすくなるので、不良果を早く摘果して草勢維持を図りましよう。

また、根が地表近くに張りやすくなるため、排水対策等を徹底し、湿害被害の防止に努めましよう。

(2) 病害虫が多発しやすくなるので、病害虫防除を徹底し、被害防止を図りましよう。

3 果樹

(1) 低温や日照不足条件では、ももの肥大不良・果肉軟化・着色不良、なしの肥大不良・果肉障害（蜜入り症）、ぶどうの成熟遅延等が発生しやすくなるので、着果管理や着色管理等を適切に実施しましよう。

(2) 果実の肥大不良の対策は、修正摘果で小玉果等を摘除し着果数を調整して、果実肥大を促進しましよう。

(3) 曇天が続く場合は、夏期せん定（徒長枝のせん除）により樹冠内部の日当たりを改善し、日照不足の影響を軽減しましよう。

(4) 低温や日照不足、長雨などの条件下では、病害虫（特に病害）の発生が多くなるおそれがあるので、発生予察情報等を活用し適切に防除を実施するとともに、定期防除の散布間隔が開かないよう注意しましよう。

(5) 有機物を利用した土づくり、土壌改良、排水対策を常に心がけ、適正な樹勢を維持しましよう。

4 花き

(1) 低温・寡照・長雨対策として、排水対策を徹底するとともに、必要に応じて葉面散布等による追肥を行い、草勢回復を図りましよう。

(2) 低温・多湿条件下では灰色かび病、きく白さび病等の発生が助長されるので、適切に防除しましよう。また、感染源となる病葉や病株を早めに処分するよう心がけましよう。

- (3) 施設栽培では、多湿にならないよう、施設内の空気循環や換気を行きましょう。
- (4) 施設栽培では、日照不足による軟弱徒長を防止するため、施肥量を調整するとともに、曇雨天後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉しましょう。

5 飼料作物

降雨が続く場合には、機械による収穫が難しくなったり、湿害等により生育不良を招くおそれがあるため、排水対策に努めましょう。

低温・多湿条件下でのサイレージ調製では、予乾牧草が高水分になりやすいため、生菌製材等の添加により、良質発酵に心がけましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7339

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=11224

モバイル県庁：福島モバイル県庁→お知らせ・各種情報→農業技術情報

(右欄に掲載のQRコードよりご覧ください)

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>



モバイル版 QRコード